

ルガ、父ガ時ヨリ氏タエテ、有カ無カニテ御坐ケルカト、下臘德人ノ聲ニ成テ、舅ノ徳ニ右ノ中將ニ成給タリケリ、此モ五節ニ絶ヌル父云ニ及バズ、祖父ノ代マデハ家繼ゾカシ、左曲ノ右中將トゾ拍子タル貧キ者タノシキ妻ヲマウクルハ、左ユガミト云事ナレバ、角拍子ケル也、花山院入道太政大臣忠雅ノ十歳ニテ父中納言忠宗卿ニ後レ給ヒ、孤子ニテオハセシヲ、中御門中納言家成卿ノ播磨守ノ時、聟ニ取テ花ヤカニモテナサレケレバ是モ五節ニ、播磨米ハ木賊カ、棕ノ葉カ、人ノ鉛ヲ付ルハトゾ拍子タリケル、

〔榮花物語二花山〕こしは天元五年になりぬ三月十一日、中ぐう融○后藤原賴子、圓たち給はんごて、
おほきおど○忠いそぎさわがせ給、これにつけても右の○兼家女おど○藤原あさましうのみ、よろづきこしめさる、ほどに、きさきた、せ給ぬ○中一のみこ○一おはするにようご○兼家女を
おきながら、かくみこもおはせぬにようごの、きさきにゐ給ひぬること、やすからぬことに世人なやみ申て、すばらのきさきとそつけたてまつりたりける。

〔江談抄三事〕源道濟號船路君事

源道濟爲藏人之時、號藤原賴貞荒武藏是也、稱船路君云々、此人不腹立之時、甚以優也、而性甚惡人也、仍不可向之、船路者天氣和順之日、甚以優也、風波惡之時、人不可堪之、故稱船路君、

〔日本紀略十一條〕寛弘二年五月三日庚戌、今日修行聖人行圓供養建立一條堂、伴聖人不論寒熱著鹿皮號之皮聖人、

〔古事談二節〕濟時大將ヲコウハイノ大將ト云故ハ、女子女御○三條皇后、藤原姫子○后ニタメント被申ケルヲ、勅許アルゾト被存テ無左右下庭上被拜舞畢、然而無立后、仍空キ拜ク大將ト世人云ケリ、而不知案内ノ人、紅梅ト知也、

〔今物語〕待賢門院の女房加賀といふ歌よみあり